

# 常照

第777号

## 自由の正体

皆様、自由とは何だろうと考えたことはありますか？ 私たちの考える自由というのは「お金に困らない、時間的に困らない、体力に困らない」あるいは「誰の指図も受けずに自分の判断で行動する」とか「それでも困った時には言うことを聞いてくれる人がいる」とか…。だいたいその辺りに集約されるんじゃないかなと思います。できればひとつでも多くその願いを叶えたいも

のであります。それを成す為に私達は苦勞していると言つてもよいかもしれせん。それらが満たされた人は、いわゆる「王様」であり「お姫さま」みたいなものだと思います。まあ王様やお姫様も責任ある立場なので一概にそうだとは言いい切れませんが…。

## 世自在王仏と法蔵菩薩

話は変わりますが、浄土真宗の教義の根本となるお経があります。仏説無量寿経、仏説観無量寿経、仏説阿弥陀経、浄土三部経と言われるものです。お経というのはお釈迦さまの説法であります。お釈迦様がお弟子に問い、語りかけた真理なのです。ときに比喩を

用いて教えを説き、お弟子さん方に真意を考えさせたのです。

仏説無量寿経はある国の国王が世自在王仏とよばれる覺りを開いた仏に遇うところから物語が始まります。彼は世自在王仏の説法を聞いて感動し、国王の位を捨てて出家するのです。巨万の富を持つ国王が無一文、無一物の修行者になり法蔵と名乗るのです。一体なぜなのでしょう？

## 出世の道

彼には国王への道、修行者の道、二つの道があり前述のごとく修行者への道を選択したのです。世間的には国王が幸せとよばれる道です。対して修行者の道は「出世間」とよばれる道であり

ます。苦しそうな道です。余談ですが、私達が社会での昇進のことを出世と呼んでいる言葉の語源はこの出世間からきたものです。昇進という意味あいから考えるとまるで真逆のようです。

話を戻します。私達が自由になりたいと考えた時、自分が自由になれない原因は何だろうかと考えます。それは規則や制約があるから。時間やお金が足りなくて困ってしまふのです。これは外から自分を束縛しているものです。解放されようと一生懸命に外にむかって努力する道を仏教では外道と申します。外道と言われると人の道や道徳から外れた悪人じゃないかと思われられるかもしれません。しかし出世と同様元来仏教用語でありますから、仏道を

外したものが人の道をも外すという意味になったのでしよう…。

### 無上正真道

しかし私達の目はすべからく外に向かつているので世間＝外道ということに言い得て妙なのです。それに対する道は何であつたかと尋ねると、不自由を感じているこの私、束縛や苦を感じている心をしつかり見つめるといふことです。これは外道に対して内観道と呼ばれます。浄土真宗ではあまり使われませんが大事な言葉です。【命あつての物種】<sup>ものだね</sup>なんて言葉がありますが、老いも病も貧乏も不自由もすべてが命ある上にやってくるものです。だとす

ればこの命があるということ、いつ終わるか、どのように終わるかかわからないという不安が究極の苦しみなのです。内観道というのはそこから始まるのです。内観道とはつまり仏道です。死に対する恐怖と苦悩に明確な答えを与え、いたずらに悩まない強さを与えてくれるのです。仏説無量寿経には「仏の説法を聞いて心に悦予を懐き尋ち無上正真道の意を発しき」と説かれています。世間の価値観、善悪や優劣、損得。そういった相対的な道を捨てましょう。自分の苦しみを見つめ、比べる必要のないものに出会っていきましようとお釈迦さまは説かれるのです。仏道を歩むことを決めた法蔵菩薩は、世間の中でしか生きていくことの

できない者を救う仏にならなければ、  
 あなたを救うことはできない。そのた  
 めに何を成すべきかと五劫思惟之撰受  
 (ごこうしゆいししようじゆ)。誓いを  
 願いを立て修行し阿弥陀仏と申す仏に  
 なられたことであります。

ちなみに親鸞聖人は阿弥陀仏を無上  
 上とか無上仏と讃嘆されています。こ  
 の上ないということの確かさを慶ばれ  
 ているお言葉でありました。

最後に、仏説無量寿経をお説きくだ  
 さったお釈迦さまの真意はどこにある  
 のでしょうか？寓話や昔話を聞かせた  
 いわけではなく、私達に「そんな生き  
 方、そんな価値観じゃ苦しいだけだ  
 よ」と問いかけてくださっているのだ  
 はないでしょうか？

### 十月の常例布教(ご法話)のご案内

#### 報 恩 講

○期 日 十月十三日(土)連夜、十六日(火)日中まで

○時 間 晨 朝 午前六時三十分  
 日 中 午前十時  
 夜 午後一時三十分

初 夜 午後六時

○布 教 右記の法要に引き続き

講 師 新潟教区与板組 隆泉寺

上 戸 聰 師

○場 所 小樽別院本堂

○浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話をし  
 て頂きます。どうぞお誘い合わせいただき、  
 ご聴聞にご来院ください。お待ちしております。

◎なお、十月十三日より十七日まで報恩講修行  
 に伴い月忌参詣をお休みさせていただきますの  
 で、どうぞ報恩講にお参りください。

#### 発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号

### 本願寺小樽別院

電 話 (〇一三四) 二二一〇七四四番  
 F A X 二九一四〇八〇番  
 テレホン法話 二七一一六一六番